

広島県福山市沼隈町の農家遺構について

迫垣内 裕*

1 はじめに

沼隈町の農家遺構については、その調査結果を当該紀要に報告し¹⁾、江戸時代中期に遡る古い遺構とともにそれ以降の遺構も多数残存することや、地方色豊かな形式・手法がみられることなど当該地区の民家の重要性を指摘したが、その後も調査を継続した結果、遺構の残存状況の良好な横倉地区をほぼ悉皆的に調査することができた。本稿は横倉地区及びその周辺域に残存する遺構の追加調査の概要を報告するものである。調査した遺構は20棟であり、前稿の報告を含めると計32棟である²⁾。

2 遺構の特徴

2-1 遺構の概要

前稿において、調査遺構数が限定された状況ではあるが、復原した形式・手法からみてⅠ期とⅡ期の建築時期に大まかに分類した。本稿で報告する20棟のうち、2棟がⅠ期、残る18棟がⅡ期に該当すると推定された³⁾。

Ⅰ期の遺構は、桁行6間、梁間4間程度と小規模ではあるが、独立した土間上屋柱と極めて細身の梁からなりその梁組みも単純な構成であること、平面は四間取系統に属するが、オエ廻りは上手のデエ境を除いた三面を閉鎖的な構えとすること、居室部のうち特に表側列と裏側列の居室境には一部に中敷居の結果を設けていて、この間の往來をあまり考慮しない居室構成となっており、一般的な四間取とは異質な面がみられること、床上部内法には厚鴨居や成が薄めの差鴨居を多用することなどを挙げたが、新たな2棟の遺構によって、さらにこの期の形式的特徴を知るための資料的補完ができた。

一方、調査した遺構の大半はⅡ期に属するものである。規模的な変化はほとんどみられないが、開放

的な柱間装置、床の間を備えた座敷の発達などが特徴的である。個々の遺構の形式・手法上の特徴を表1～3に、また、当初形式を推定した復原平面図を図1～3に示す⁴⁾。

2-2 特徴的な遺構

当該地域で古式を残す遺構は、前稿の5棟に加えて表1に示すようにさらに2棟が存在した。何れも横倉地区に残存する遺構であり、数少ない江戸中期の新たな遺構として貴重である。

橋本栄治郎家住宅 (No.13 中山南横倉) は、土間妻側上屋筋中央に独立柱が立つ古い事例であるが、土間妻側入側隅柱の有無は不明である。平面上の特徴は、オエ・ダイドコロ境中央柱の両側の柱間のうち上手側の柱間に中敷居(2本溝、床より5.5寸高)仕口及び蹴込板小穴の痕跡が残ることである。オエ北側をこのような構えとするのはⅠ期に属する遺構にしかみられない。また、鴨居も薄めの差鴨居(1間長5.5寸、2間長6寸)であり古式である。

上杉喜八郎家住宅 (No.14 中山南横倉) は、オエ裏手(北側)中央柱の上手柱間柱面に中敷居用の待柄と蹴込板用小穴が残る。内法の鴨居は5.2寸と薄く当初からの2本溝である。また、オエ表側外部境は3本溝の当初差鴨居が残っており閉鎖的な構えであったことがわかる。土間には妻側裏手に入側隅柱が当初から立つ。

両遺構ともデエ裏手のナンド境に中敷居を入れ、差鴨居を高い位置に入れた構えとする痕跡が残っている。上杉家の場合は内法より6寸高に差鴨居があり、さらに対面する柱に袖板壁と思われる胴縁穴が残存していた。この部分は改造が甚だしい遺構が多く当初形式がわからないものが多いが、聞き取りなども総合すると、古くは仏壇置き場として床を高く張った何らかの構えをナンド境に設ける場合もあったようである。門田武士家住宅 (No.18 中山南横倉)

*総合生活デザイン学科

表1-A 調査遺構の復原形式(その1)

No	家屋名称	所在	復原規模(間)				屋根形式(復原)	外壁(復原)	平面形式(復原)	押入・床の有無	年代区分	推定築年	実築年代	備考
			桁行	梁間	土間梁間	土間桁行								
1	上杉喜八郎家旧屋	中山南横倉	5.5	3.5	2.5	1.5	入母屋	大壁	四間取系	なし	I期	17C末~18C末		土間・床上裏側不明,表側出梁式 古材一部利用か? 宝永8年初代没,裏手不明,表側出梁式? 不明部分多い
2	池永亦夫家住宅	中山南横倉	6.5	4.0	3.0	2.0	入母屋	大壁	四間取系	押入				
3	池永 勉家住宅	中山南横倉	6.5	4.0	3.0	2.0	寄 棟	大壁	四間取系	押入				
4	上杉俊夫家住宅	中山南横倉	5.25	4.0	3.0	1.75	入母屋	大壁	四間取系	なし				
5	広岡九郎家住宅	中山南横倉	6.0	4.0	3.0	2.0	寄 棟	不明	四間取系	不明				
6	友野明彦家住宅	常石片山	6.5	4.0	3.0	2.5	入母屋	大壁	四間取系	押入	II期	19C~		裏手不明 明治25年頃建替(古材利用)不明部分多い 古材利用,裏手不明 ナンド座敷化 ナンド2室化
7	大原清人家住宅	中山南横倉	6.0	4.0	3.0	2.0	入母屋	大壁	四間取系	押入				
8	寺岡尚文家住宅	能登原	6.0	4.0	3.0?	2.0	寄 棟	大壁	四間取系?	不明				
9	寺岡膺三家住宅	能登原	5.5	4.0	3.0?	2.0	寄 棟	大壁	四間取系?	不明				
10	寺岡 勉家住宅	能登原	5.5	4.0	3.0?	2.0	入母屋	大壁	四間取系?	押入				
11	池永清光家住宅	中山南横倉	5.5	4.0	3.0	2.0	寄 棟	大壁	四間取系	床・押入				
12	岡崎 隆家住宅	中山南横倉	6.5	4.0	3.0	2.0	寄 棟	大壁	四間取系	床・押入				

表1-B 調査遺構の復原形式(その1)

No	家屋名称	所在	復原規模(間)				屋根形式(復原)	外壁(復原)	平面形式(復原)	押入・床の有無	年代区分	推定築年	実築年代	備考
			桁行	梁間	土間梁間	土間桁行								
13	橋本栄治郎家住宅	中山南横倉	6.0	4.0	3.0	2.0	寄 棟	不明	四間取系	押入	I期	17C末~18C末		裏手不明 裏手不明 屋敷構旧状残存,安政4(1857)建築(記録) 規模小 昭和8(1933)古家を移築,裏手不明 明治14(1899)頃古家を移築,裏手・土間廻り不明 規模大,土間廻り不明 ナンド・土間廻り不明
14	上杉喜八郎家住宅	中山南横倉	6.0	4.0	3.0	2.0	入母屋	不明	四間取系	押入				
15	門田文字家住宅	中山南横倉	6.5	4.0	3.0	2.0	寄 棟	大壁	四間取系	床・押入				
16	竹内哲郎家住宅	中山南横倉	5.5	4.0	2.5	2.0	寄 棟	大壁	四間取系	なし				
17	平本 実家住宅	中山南横倉	5.5	4.0	3.0	2.0	寄 棟	大壁	四間取系	押入				
18	門田武士家住宅	中山南横倉	6.5	4.0	3.0	2.0	寄 棟	不明	四間取系	押入	II期	19C~		明治4(1871)建築,裏手不明 裏手不明 古家を移築,土間廻り不明 明治34(1901),「四八」の家,土間廻り不明 明治4(1871)建築,裏手不明 裏手不明 土増築により旧状不明 昭和22(1947)建築,土間廻り不明 昭和8(1933)建築
19	高橋正紀家住宅	中山南横倉	6.5	5.0	不明	2.0	寄 棟	大壁	四間取系	床・押入				
20	佐藤春彦家住宅	中山南横倉	5.5	4.0	3.0	2.0	入母屋	大壁	四間取系	押入				
21	佐藤和治家住宅	中山南横倉	6.75	4.0	3.0	2.25	寄 棟	大壁	四間取系	床・押入				
22	水川 清家住宅	中山南横倉	6.0	4.0	3.0	2.0	入母屋	大壁	四間取系	床・押入				
23	大原俊郎家住宅	中山南横倉	6.0	4.0	3.0	2.0	寄 棟	大壁	四間取系	押入				
24	大原俊美家住宅	中山南横倉	6.5	4.5	3.5	2.0	寄 棟	不明	四間取系	床・押入				
25	辻原 茂家住宅	中山南横倉	6.0	4.0	3.0	2.0	入母屋	大壁	四間取系	押入				
26	土居昭三家住宅	上山水落	7.0	4.5	3.5	2.5	寄 棟	大壁	四間取系?	床・押入				
27	平本 健家住宅	中山南横倉	6.0	4.0	3.0	2.0	寄 棟	不明	四間取系?	押入?				
28	門田成之家住宅	中山南横倉	6.0	4.0	3.0	2.0	寄 棟	不明	四間取系	床・押入				
29	岡崎和行家住宅	中山南横倉	5.0	4.0	3.5	2.0	入母屋	大壁	四間取系	不明				
30	水川 儂家住宅	中山南横倉	6.0	4.0	3.0	2.0	寄 棟	大壁	四間取系	床・押入				
31	平本角市家住宅	中山南横倉	6.75	4.5	3.5	2.25	寄 棟	大壁	四間取系	床・押入				
32	広岡良人家住宅	中山南横倉	6.25	4.5	不明	2.25	寄 棟	不明	四間取系	床・押入				

表2-A 調査遺構の復原形式(その2)

No	家屋名称	柱仕上げ	ニワ		独立柱	床上部柱寸法(寸)	ニワ・床上土境中央柱寸法(寸)	内 法 材	
			本 数	寸 法(寸)				内法材種別	成(寸)
1	上杉喜八郎家旧屋	手斧・鉋併用	1本?(裏側)	6φ		4	左 同	厚鴨居のみ	3.6~4.5
2	池永亦夫家住宅	手斧・鉋併用	3本	6.5φ,5.5φ,7φ		4.5	左 同	厚鴨居・差鴨居	4~9.5
3	池永 勉家住宅	手斧・鉋併用	3本	6.5φ,7φ,7φ		4	左 同	長押・鴨居	鴨居1.9,長押4
4	上杉俊夫家住宅	手斧・鉋併用	1本(裏側)	8.5φ		4.4	左 同	厚鴨居・差鴨居	4.8~7.5
5	広岡九郎家住宅	手斧・鉋併用	1本?(裏側)	不明		4.5	左 同	差鴨居(薄い)	5.5~8.8
6	友野明彦家住宅	手斧・鉋併用	1本(中央)	10φ		4.5	左 同	差鴨居	5.5~8.3
7	大原清人家住宅	鉋	1本(中央)	7×6		4	左 同	差鴨居	6.8~9
8	寺岡尚文家住宅	鉋	1本(中央)	8φ		4.3	4.9	差鴨居	7.8~10.5
9	寺岡膺三家住宅	鉋	1本(中央)	6×6		4	左 同	差鴨居	5.5
10	寺岡 勉家住宅	手斧・鉋併用	1本(中央)	7φ		4	左 同	差鴨居	6.5~10
11	池永清光家住宅	手斧・鉋併用	1本(中央)	9φ		4	左 同	差鴨居・長押	6~7.7
12	岡崎 隆家住宅	鉋	1本(中央)	10φ		4.4	5	差鴨居・長押	9.2~10

表2-B 調査遺構の復原形式(その2)

No	家屋名称	柱仕上げ	ニワ		独立柱	床上部柱寸法(寸)	ニワ・床上土境中央柱寸法(寸)	内 法 材	
			本 数	寸 法(寸)				内法材種別	成(寸)
13	橋本栄治郎家住宅	手斧・鉋併用	1本?(中央)	不明		4.3	4.9	差鴨居(薄い)	5.5~6
14	上杉喜八郎家住宅	手斧・鉋併用	1本(裏側)	不明		4.3	左 同	差鴨居(薄い)	5.2~8.6
15	門田文字家住宅	鉋	1本(中央)	9φ		4.3	左 同	差鴨居,長押	8.8~10.8
16	竹内哲郎家住宅	手斧・鉋併用	1本(裏側)	6φ		4	左 同	差鴨居	4.7~6
17	平本 実家住宅	手斧・鉋併用	1本(裏側)	7.9φ		4.3	左 同	差鴨居	6.4~9.5
18	門田武士家住宅	手斧・鉋併用	1本(中央)	8.5φ		4.3	左 同	差鴨居	6.5~8.5
19	高橋正紀家住宅	鉋	1本(中央)	不明		4.6	6.6×4.8	差鴨居,長押	
20	佐藤春彦家住宅	鉋	1本(中央)?	不明		4.3	左 同	差鴨居	6.5~8
21	佐藤和治家住宅	鉋	1本(中央)?	9.9		4.3	5×5.5	差鴨居,長押	10.5~12
22	水川 清家住宅	鉋	1本(中央)	9.6φ		4.3	5	差鴨居,長押	8.6~10.1
23	大原俊郎家住宅	鉋	1本(中央)	不明		4.8	左 同	差鴨居	7.4~10.1
24	大原俊美家住宅	鉋	1本(中央)	不明		4.4	5	差鴨居,長押	
25	辻原 茂家住宅	鉋	1本(中央)	6.6φ		3.9	左 同	差鴨居	5~8.9
26	土居昭三家住宅	鉋	1本(中央)	9.9		4.6	左 同	差鴨居,長押	10
27	平本 健家住宅	鉋	1本(中央)	6.3φ		4.5	左 同	差鴨居	7.9~10
28	門田成之家住宅	鉋	1本(中央)?	不明		4	4×5	差鴨居,長押	7.9~9.5
29	岡崎和行家住宅	鉋	1本(中央)	6.3φ		4	左 同	差鴨居	6.7~7.7
30	水川 儂家住宅	鉋	1本(中央)	不明		4	左 同	差鴨居,長押	6.8~7.8
31	平本角市家住宅	鉋	1本(中央)	5.8×7.3		4.5	左 同	差鴨居,長押	9.7
32	広岡良人家住宅	鉋	1本(中央)	7.3		4.3	左 同	差鴨居,長押	9.4

広島県福山市沼隈町の農家遺構について

表3-A 調査遺構の復原形式 (その3)

No	家屋名称	柱間装置 (復原)					その他の柱間 (古式要素)
		オエ正面	ニワ・オエ境	オエ・ダイドコロ境	ナンドダイドコロ境	デエ正面	
1	上杉喜八郎家旧屋	中央柱, 左柱間不明, 右柱間袖壁付片引戸	中央柱, 裏側窓, 表側袖壁付片引戸	袖壁付片引戸	不明	不明	オエ・ナンド境袖壁付片引戸 (中敷居), デエ・ナンド境片袖壁 (一部)
2	池永亦夫家住宅	中央柱, 3本溝	中央柱, 裏側2本溝又は袖壁付片引戸, 表側2本溝	中敷居有り2本溝?, 片引戸	袖壁付片引戸	3本溝	
3	池永 勉家住宅	中央柱, 3本溝	中央柱, 2本溝	中央柱, 両柱間とも中敷居? 2本溝, 右側2本溝	不明	中央柱, 3本溝	
4	上杉俊夫家住宅	中央柱, 左柱間3本溝, 右柱間袖壁付片引戸	中央柱?, 裏側窓, 表側袖壁付片引戸	中央柱, 左側中敷居有り袖壁付片引戸, 右側2本溝	袖壁付片引戸?	3本溝	デエ・ナンド境板壁
5	広岡九郎家住宅	中央柱, 3本溝	柱無し, 2本溝	中央柱, 左側中敷居有り2本溝, 右側2本溝	袖壁付片引戸?	不明	デエ・ナンド境板壁?
6	友野明彦家住宅	中央柱, 2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	中央柱, 2本溝	2本溝	内雨戸	
7	大原清人家住宅	中央柱, 2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	中央柱, 2本溝	2本溝	内雨戸	
8	寺岡尚文家住宅	中央柱, 2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	中央柱, 2本溝	不明	内雨戸	
9	寺岡脛三家住宅	柱無し, 2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	柱無し, 2本溝	不明	内雨戸	
10	寺岡 勉家住宅	中央柱, 2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	不明	不明	内雨戸	
11	池永清光家住宅	2本溝	柱無し, 2本溝	柱無し, 2本溝	2本溝	外雨戸	
12	岡崎 隆家住宅	中央柱, 2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	中央柱, 2本溝	2本溝	内雨戸	

表3-B 調査遺構の復原形式 (その3)

No	家屋名称	柱間装置 (復原)					その他の柱間 (古式要素)
		オエ正面	ニワ・オエ境	オエ・ダイドコロ境	ナンドダイドコロ境	デエ正面	
13	橋本栄治郎家住宅	中央柱, 2本溝	柱無し, 1本引?	中央柱, 左側中敷居有り2本溝, 右側2本溝	袖壁付片引戸?	3本溝	デエ・ナンド境中敷居, 差鴨居高い位置
14	上杉喜八郎家住宅	中央柱, 3本溝	柱無し, 2本溝	中央柱, 左側中敷居有り2本溝, 右側2本溝	不明	不明	デエ・ナンド境中敷居, 差鴨居高い位置
15	門田文字家住宅	中央柱, 2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	中央柱, 2本溝	2本溝	内雨戸	
16	竹内哲郎家住宅	中央柱, 2本溝, 雨戸不明	柱無し, 2本溝	中央柱, 2本溝	不明	不明	
17	平本 実家住宅	2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	2本溝	不明	内雨戸	
18	門田武士家住宅	中央柱, 2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	中央柱, 2本溝	不明	内雨戸	デエ・ナンド境中敷居, 差鴨居高い位置 (当初構)
19	高橋正紀家住宅	中央柱, 2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	中央柱, 2本溝	2本溝	内雨戸	
20	佐藤春彦家住宅	中央柱, 2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	中央柱, 2本溝	2本溝	内雨戸	
21	佐藤和治家住宅	中央柱, 2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	中央柱, 2本溝	2本溝	内雨戸	
22	水川 清家住宅	中央柱, 2本溝, 雨戸不明	柱無し, 2本溝	中央柱, 2本溝	2本溝	内雨戸	
23	大原俊郎家住宅	中央柱, 2本溝, 雨戸不明	柱無し, 2本溝	2本溝	2本溝	内雨戸	
24	大原淑美家住宅	中央柱, 2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	中央柱, 2本溝	2本溝	外雨戸?	
25	注原 茂家住宅	中央柱, 2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	中央柱, 2本溝	2本溝	内雨戸	
26	土居昭三家住宅	2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	2本溝	2本溝	内雨戸	
27	平本 健家住宅	中央柱, 2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	中央柱, 2本溝	不明	内雨戸	
28	門田成之家住宅	中央柱, 2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	中央柱, 2本溝	不明	内雨戸	
29	岡崎和行家住宅	2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	2本溝	2本溝	内雨戸	
30	水川 優家住宅	2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	2本溝	2本溝	内雨戸	
31	平本角市家住宅	2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	2本溝	2本溝	内雨戸	
32	広岡良人家住宅	2本溝, 内雨戸	柱無し, 2本溝	2本溝	2本溝	内雨戸	

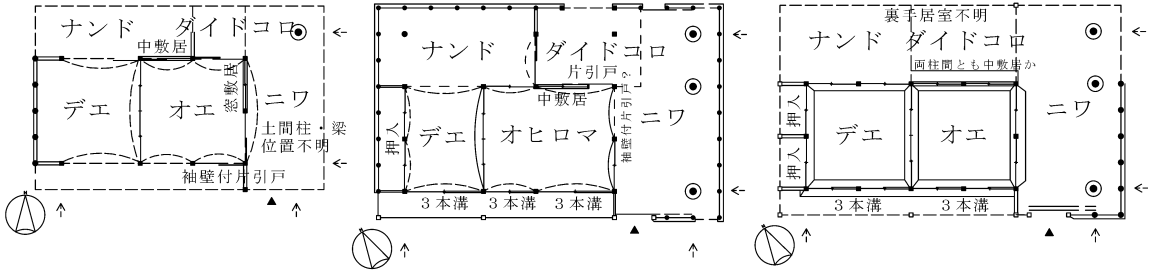
は、内法の高い位置に差鴨居、床は中敷居 (床より5寸高) を入れて高くした当初からの仏壇構えを残す。

また、Ⅱ期に分類される遺構は18棟であるが、居室の柱間装置が開放的な構えとなり、内法に比較的厚手の差鴨居を多用するようになる。Ⅰ期ではデエは上手妻側を居室に取り込むか押し入とした素朴な形式で、仏壇をナンド側に安置する機会が多かったと推定されるが、やがて妻側に床の間と仏壇を並置した充実した接客用座敷が一般的となった。このようにⅠ期とⅡ期とは平面上の大きな差異が認められる。

門田文字家住宅 (No.15 中山南横倉) は、Ⅱ期を代表する遺構である。主屋は当家に残る記録から安政4年 (1857) の建築であることが明らかである。平

面は表側に8畳2室、裏側に6畳2室を並べた整形の四間取で、内法は1尺前後の差鴨居で固めている。デエ廻りは長押を巡らし、デエ上手妻側は下屋に床の間と仏壇置場を兼ねる押し入を並置する。柱間装置は2本溝に引違戸を建て込む開放的な形式で、表側 (南側) 下屋縁境には内雨戸が入る。ニワは表と裏の居室境筋の入側に独立柱が立った古式を残すが、土間下屋柱は4寸角の角材である。当該地区における民家の究極的な発展形式を示す遺構であり重要である⁵⁾。

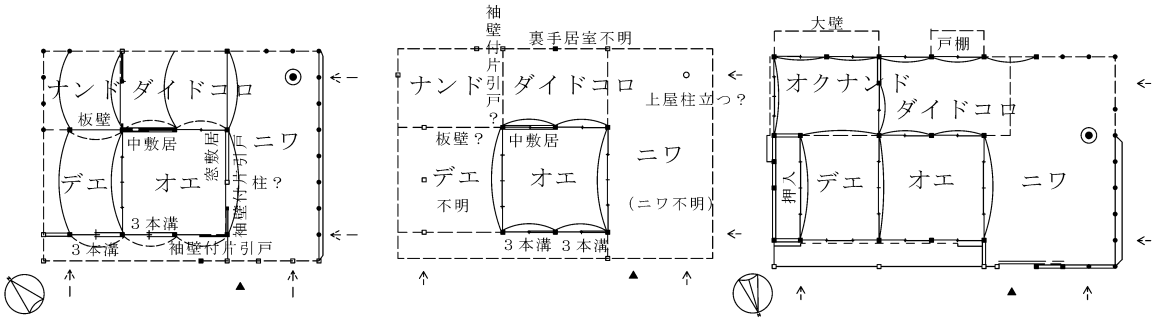
当該地区ではオエ (通常8畳大の規模である) の中央に後から敷居を取り付けて建具によって桁行に二分する使い方をする例が多く見られた。門田家も一時期このような構えとした痕跡が残っている。



No. 1 上杉喜八郎家旧屋復原平面図

No. 2 池永亦夫家住宅復原平面図

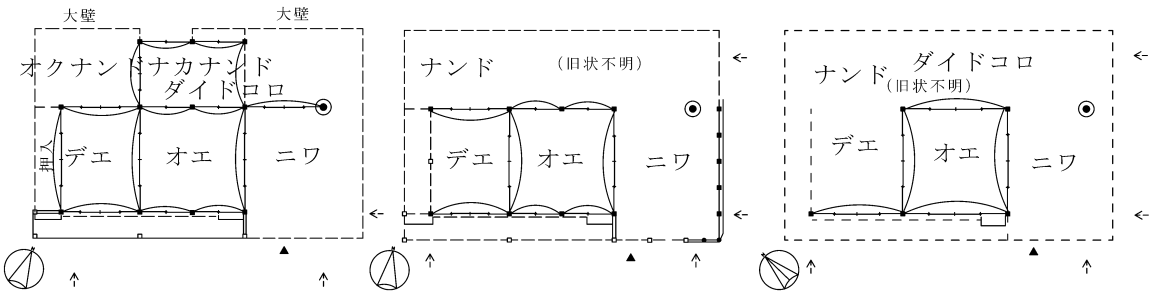
No. 3 池永勉家住宅復原平面図



No. 4 上杉俊夫家住宅復原平面図

No. 5 広岡九郎家住宅復原平面図

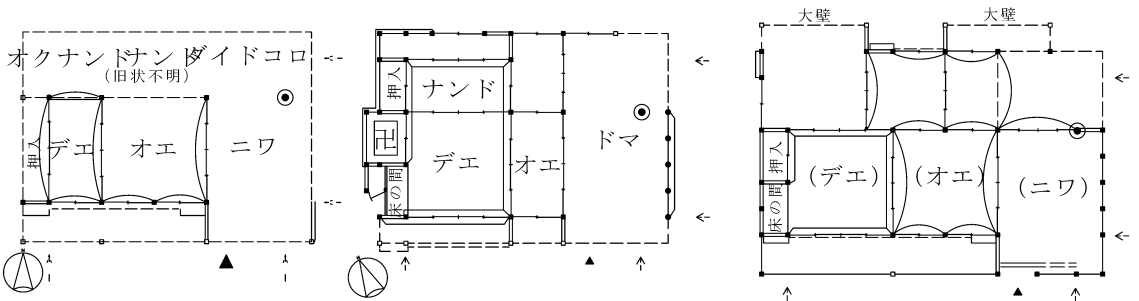
No. 6 友野明彦家住宅復原平面図



No. 7 大原清人家住宅復原平面図

No. 8 寺岡尚文家住宅復原平面図

No. 9 寺岡鷹三家住宅復原平面図



No. 10 寺岡勉家住宅復原平面図

No. 11 池永清光家住宅復原平面図

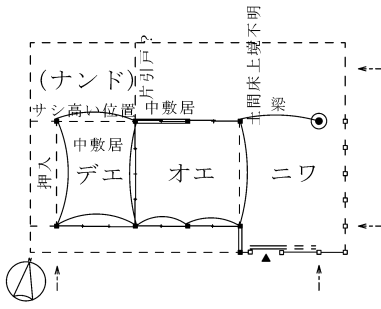
No. 12 岡崎隆家住宅復原平面図

厚鴨居
長押

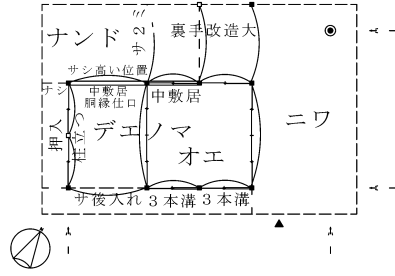
差鴨居または無目梁
入側筋

図1 復原平面図 (No. 1~12)

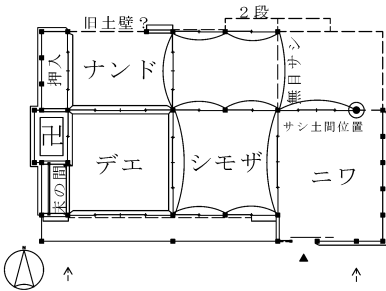
広島県福山市沼隈町の農家遺構について



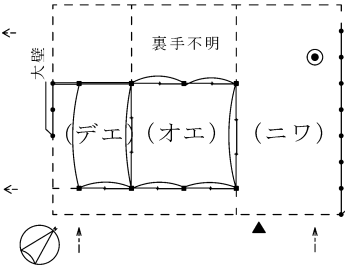
No. 13 橋本栄治郎家住宅復原平面図



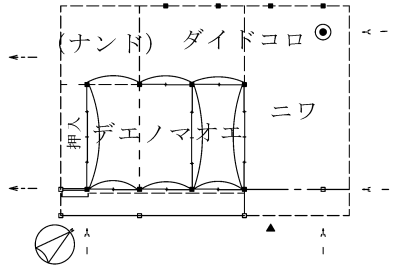
No. 14 上杉喜八郎家住宅復原平面図



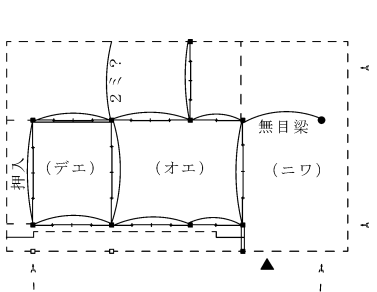
No. 15 門田文字家住宅復原平面図



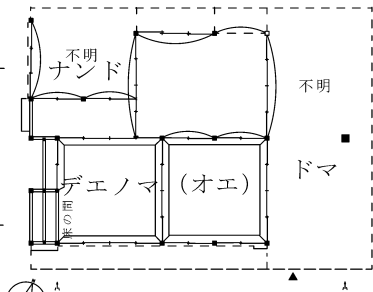
No. 16 竹内哲郎家住宅復原平面図



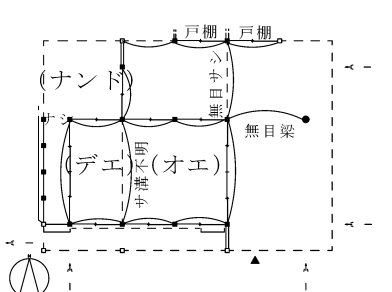
No. 17 平本実家住宅復原平面図



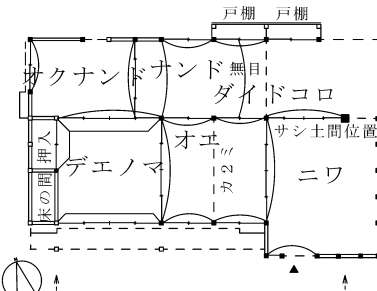
No. 18 門田武士家住宅復原平面図



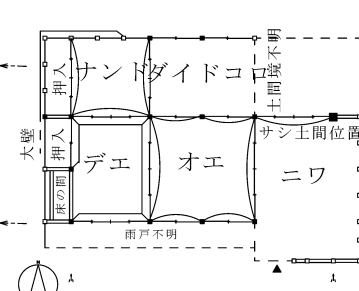
No. 19 高橋正紀家住宅復原平面図



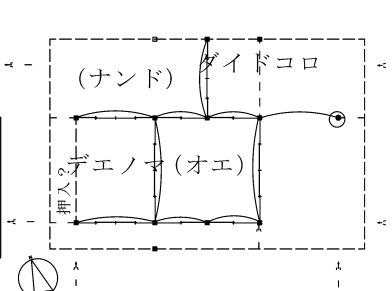
No. 20 佐藤春彦家住宅復原平面図



No. 21 佐藤和治家住宅復原平面図



No. 22 水川清家住宅復原平面図



No. 23 大原俊郎家住宅復原平面図

図2 復原平面図 (No. 13~23)

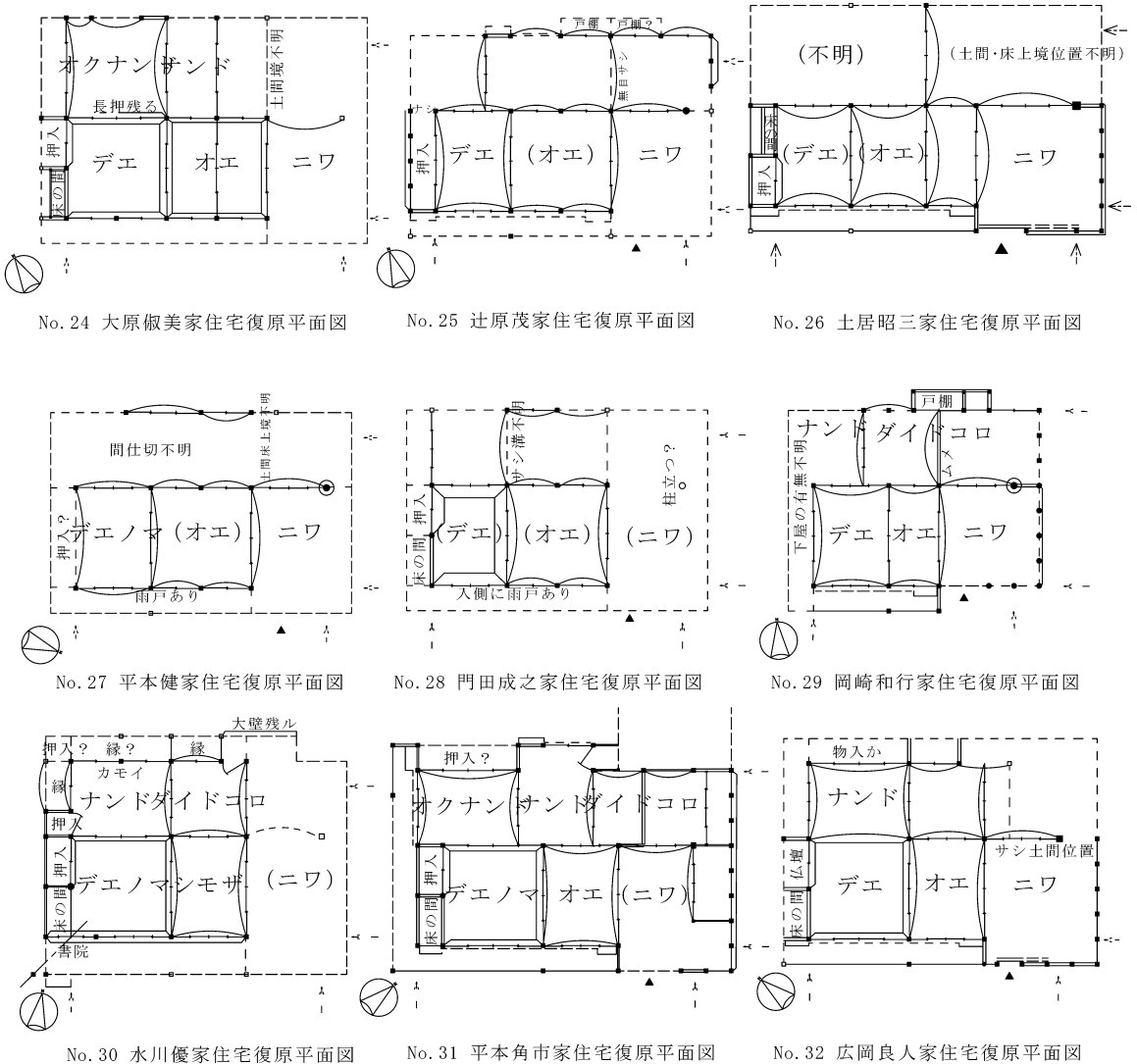


図3 復原平面図 (No.24~32)

この場合デエとニワの間には長4畳間が2室続く変則的な間取りとなるが、この方式は現在まで継承されている事例もある。デエ側4畳は畳敷き、ニワ側は板敷きとする場合が多く、限られた居室空間に土間に面した上がり端の機能と続き座敷としての機能の両面の充実を図るための平面上の工夫と考えられる。

3 結びにかえて

以上、前稿に続いて追加調査によって得られた知見を報告したが、基本的には前稿で得られた知見の追認と補完をすることができたと考える。特にI期に属す

と推定される遺構が新たに2棟明らかにできたことは、当該地区の江戸時代中期の形式・手法を知る上で大きな成果といえよう。また、江戸時代中期から昭和期までの伝統的な形態を留める農家が当該地区に集中して残存している事実も確認できた。

今後の課題としては小屋組を含めた構造方式についての解明が必要である。当該地区の江戸時代中期に遡る遺構（I期）の場合、土間妻手入側に独立柱を立てるが、土間裏手入側隅に1本立つ場合と土間妻手入側隅2箇所と居室境筋入側の合わせて3本が立つタイプがあり、最も古式を残す上杉喜八郎家旧屋（No.1）では、土間裏手入側隅に1本立つものの、改造によっ

て土間廻りの柱や梁等の部材が悉く失われているので、当初の形式・手法が明らかにできていない。Ⅱ期になると、入側隅の柱は省略されて居室境筋の柱1本となってこの方式が昭和期まで根強く踏襲されるのである⁶⁾。後世の改造が大きい箇所もあって困難な面は多いがこの点の解明に努めていきたい。

4 おわりに

沼隈町横倉地区の民家調査は1997年度から開始された。当該地区に今日まで多くの民家が残っているのは「民家を大切に作る会」をはじめとする地元の方々の保存活動によるところが大きい。当該調査が保存のための基礎資料として役立てば幸いである。なお、調査にあたっては地元有志の方々の全面的な協力を得た。特に調査計画の策定、現地案内では倉田久士氏に、調査図面の浄書では河野嘉明氏の協力を得た。また、各戸にお住まいの方々には快く調査の承諾を頂いた。心より感謝の意を表するものである。

[注]

- 1) 迫垣内 裕「沼隈町の江戸時代中期の民家」比治山大学短期大学部紀要第34号 pp.1-8 1999

- 2) 前稿で12棟、本稿で20棟の計32棟であるが、当初形式の残存状況が悪く旧状等に不明な箇所が多くみられる遺構や農家以外の遺構7棟を除いている。
- 3) Ⅱ期については推定建築年代を19世紀としていたが、今回の調査によって昭和期に至っても形式・手法を踏襲した遺構が一般的なことから、本稿では19世紀以降も含めている。
- 4) 前稿に所収した遺構は表1～3のA及び図1である。考察上必要なことから掲載している。なお、前回掲載分については、その後の追加調査で得られた知見により、一部修正を施した箇所がある。なお、調査時に室呼称が不明であった遺構は、当該地区で一般的な室呼称を括弧で便宜上記している。
- 5) 主屋の他に門長屋（文政10・1827）、離座敷（嘉永3・1850）、土蔵が残っており主屋を含めた屋敷構え全体が江戸時代末期の様相をよく伝えており、屋敷全体の保存を図りたい遺構である。
- 6) 土間裏手入側隅または土間の居室境筋入側に立つ独立柱に竈の神を祀り、この柱をロックウバシラと称して大切に扱ってきた。建築技術の発達した昭和期の新築農家にまでこの柱が残ることになったのは、この民俗信仰との関係も無視できない。
(受理 平成23年10月3日)

Abstract

A Study on Farming Houses in the Edo Period in Numakuma-cho
(Fukuyama City)

Yutaka SAKOGAKICHI*

The purpose of this paper is to clarify the regional characteristics of the farming houses in Numakuma-cho (Fukuyama City, Hiroshima Prefecture) through the restored plan and framework. Some houses arrange the raised sill track (chu-shikii) between the family dining-living space (daidokoro) and the family living space (oe). This floor plan is a most unique type. I presume this type was formed in the early Edo period.

(Received October 3, 2011)

* Department of Comprehensive Human Life Studies